

東京 IPO 特別コラム

2017年12月28日 Vol.106

IPOラッシュの中で人気沸騰の銘柄

12月は22銘柄がIPOを果たすなど例年通り、まさにIPOラッシュの様相でしたが、皆様はこの潮流をどう運用に活かされましたでしょうか。公開前に最低単元株数をゲットしてそれぞれに利益を得られた方もお見えになるかと思いますが、余りの人気ぶりについて行けず様子見で終わったという方も多いのかも知れません。中には初値でチャレンジして成果を上げられた経験豊富な投資家の皆様もお見えになるかも知れませんが、一般的にはこうした潮流についていくのは難しいとお感じになっているのかも知れません。

IPO銘柄は市場や業種などで人気偏りがちで二極化する傾向があるため事前に銘柄選択をしっかりと行うことで成果を上げられたのではないかと推察されます。東京IPOサイトにはそうしたヒントになる情報がたくさんありますので、IPO銘柄ファンの皆様は多少でも参考になさっているのかも知れません。ただ、公開価格に対して初値が2倍以上となったような銘柄に対して勇気をもってリスクテイクするのは至難の業。とは言え、結果としては画像処理装置メーカーのヴィスコ・テクノロジーズ(6698・JQ)や東祥(8920)系のABホテル(6565・JQ)、みらいワークス(6563・マザーズ)のような初値から更に大きく値を上げる銘柄も見出せますので、これらにリスクテイクできた投資家の笑顔が見て取れます。一方で、アルヒ(7198・東証1部)やプレミアグループ(7199・東証2部)のような金融系2社は需給悪で上場初値が公開価格を下回るなど悲喜こもごもの展開であることに違いはありません。

人気偏るのは需給面での差があるためでもあり、それぞれ人気沸騰銘柄には過熱感があります。例えばヴィスコの場合は公開価格4920円に対して初値は15000円と3倍になり、初値から昨日の高値40200円まで2.6倍となったことになり、時価総額も280億円(今期予想経常利益は3億円)となるなど驚きの株価上昇です。やや過熱気味で今後は波乱の展開も予想されます。また、ABホテルの場合は公開株価1500円に対して初値は2倍強の3060円。そこから昨日まで2日連続のストップ高となり5160円となり買い物を残して終わっています。これも時価総額は360億円となり予想経常利益11億円に対しては明らかに過熱感が出ています。

また、11月に上場した福祉機器の幸和製作所(7807・JQ)もCYBER社の連想が働き初値7980円から2.3倍の18610円の高値をつけるなど銘柄ごとに違いはありますが、投資家心理は企業の将来性を根底に好需給で値動きが軽いIPO銘柄に関心が向かっています。

そんなこんなで2017年のIPO相場も幕を閉じ、銘柄ごとに差があるとは言え、活況の中で大納会を迎えようとしています。本コラムも2017年は今回が最後となり、来る2018年の大発表会から新たな気持ちで皆様にお届けすることを楽しみにしております。本年のご愛読に感謝申し上げます、また新年も引き続きご愛読賜りましたら幸いです。

東京 IPO 特別コラム

す。それでは皆様良いお年をお迎え下さい。

*2018年は1月4日からの配信を予定しております。過去2年程度の期間にIPOした銘柄の中から筆者が特に注目しているいくつかの銘柄について取り上げたいと思っておりますので宜しくお願いします。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)